令和４年度　日本大学スポーツ科学部　個人研究費　研究実績報告書

所属：スポーツ科学部　競技スポーツ学科
資格：専任講師
氏名：小泉　夏子

研究課題名	少女文化と〈ポエム〉に関する研究
研究目的及び研究概要	本研究は、1970年代から80年代前半にかけて、日本の若い女性の間で流行った〈ポエム〉について、その生成の過程と表現の特質を検証し、女性をとりまく文学と文化のありようを多角的に考察した。 これまで〈ポエム〉については、社会学等の研究成果はあるものの、平易なテーマや語彙が選択されるためか、日本近代文学研究においては取り上げられることが少なかった。しかし、文学研究の手法によって〈ポエム〉の表現の特質を明らかにすることは、戦後の韻文における方法論という点においても、広告文化との交差という点においても意義がある。さらに当時の女性をめぐる文化的構図を再考する契機にもなる。本研究は、文学研究の手法を用いて〈ポエム〉を分析し、1970年代から80年代前半の女性をとりまく文学と文化のありようを解明することを目指した。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	「進捗状況」〈ポエム〉に関する資料は、近年雑誌メディアの電子データ化が進み、閲覧が簡便になったものの、資料の数が膨大なことと、資料の散逸から概観することが難しい。そこで本研究は、まず1970年代から80年代の少女雑誌および少女漫画雑誌を調査し、該当資料の収集をおこなった。その上で文字テクストの分析とイラストの相関関係を分析した。 「得られた成果」分析の結果、消費文化のなかでブームとなった少女ポエムの表現の特徴をあぶり出した。また、当時の少女をとりまく文化的状況の一面も明らかにした。さらに、詩的言語と日常に用いる生活言語が接合される文学場周辺の動きも分かってきた。 「今後の課題」今後は、本年度明らかとなった少女ポエムの特徴とそれが置かれた文化的状況を踏まえ、女性の表現が生まれる場の論理を明らかにする。